

かけがえのない『学問の自由』 ～学術会議会員任命拒否によせて～

講師：永山 茂樹 さん
東海大学法学部教授



開催概要

日時：2021年3月17日
場所：オンライン（Zoom）
参加人数：29人
担当：憲法委員会

菅首相は日本学術会議会員の6名の任命を拒否した。この問題は一部の大学教員や研究者の個人的な問題であって、一般の人には関わりのない問題だという考え方があり。しかし、この問題は、すべての人に保障されるべき学問の自由、およびその他の人権、科学と真理に依拠すべき民主政治、人事権をはじめとする公権力を一か所に集中させない権力分立、総じて公権力は憲法によって拘束されなければならないという立憲主義の理念を脅かす重大な問題である。日本学術会議とは、日本の「科学者の国会」ともいわれ、その業績を内外に代表する機関である。そのような組織の人事に政府が介入することは、国家による学問の自由の侵害になる。

同会議は政府に対する政策提言、国際的な活動、科学者間のネットワークの構築などを任務としている。会員の任命拒否ははじめてのことである。6名の任命拒否の理由について、菅首相はいろいろな理由をこじつけたが、真相は「安保関連法」や「共謀罪」の法律を批判する発言があったことが理由ではないかといわれている。

戦前、学問の自由をめぐる国家が介入した事件を紹介し、真実が国民に知らされないことが国民に対して如何に重大な被害をもたらしたか、任命拒否は一般の人にとってどういう意味があるか、同会議は、軍事研究の推進に関してどういう声明を発表したか、任命拒否は、菅政権の政策全体とどう関係するか等々、わかりやすく説明され、質疑が行われた。事前に参加者から寄せられた3点の質問に丁寧な答え、参加者の理解と問題意識が深まった。アンケートや感想文でも非常に好評な声が寄せられた。